

様々な交流により 高齢者の孤立・孤独の解消に貢献。

さか い し こ
坂井 志げ子さん 石川県 83歳



助かった命に感謝し、地域と高齢者のために活動。

平成5年、地区の癌検診で胃がんが発見された坂井志げ子さんは、胃の3分の2を切除することになりましたが、幸いにも早期発見であったため回復することができました。

回復後は、5年間にわたり地元の公民館などで草木染めやパッチワークを学ぶ生活を続けていましたが、徳田地区から七尾市老人クラブ連合会の女性理事に推薦されると、助かった命に感謝する意味で引き受け、地域と高齢者

のために活動することになりました。

平成16年には合併により新七尾市となりましたが、女性理事としての仕事はそのまま続け、平成20年まで10年にわたって活躍することとなりました。

高齢者が生き生きと交流できる支援グループを設立。

平成16年、市からの依頼を受けて、高齢者が家に閉じこもらないように、町内で集まり心豊かな長寿を推進することを目的とした支援グループを立ち上げます。「Nenkaikane」の交流で、グループ員だけでなく町内のみんなに明るい笑顔が広がるようにという願いを込めて、坂井さんの発案で「元氣かいね」グループ白馬というグループ名称にしました。

馬」では、手工芸による作品作りや食事会、歌や踊りによる特別養護老人ホームや他町の老人会との交流などを行い、町内の高齢者が孤立・孤独にならないよう、町会の方とのつながりを深める役割を果たしています。

また、活動内容によって、グループ員の中に得意な人がいれば、周りの人々に教えるようにしており、詩吟の資格を持つ方、大正琴を演奏できる方、料理が得意な方など、その時々でみんなが生徒であり、みんなが先生になります。

10周年を迎え、さらに充実した活動を展開。

平成25年10月には、「元氣かいね」グループ白馬発足10周年の記念式典が行われ、祝賀会では発足時から参加する7名のメンバーの表彰式が行われ、記念誌の発刊なども行われました。この模様は、地元の

ケーブルテレビでも放映され話題になっています。

現在、「元氣かいね」グループ白馬は、介護予防活動を行うグループとなり、発足当時女性ばかりだったグループに男性も加わり、平均年齢80歳、男女合計27名のグループとして積極的な活動を行っています。

10年にわたって代表を務めてきた坂井さんは「町会の方との人間関係を深める役割を果たし、新しいリーダーの育成と、新加入者とともに長寿をめざす努力していきたい」と語ります。

